

## 川は心のふるさと ～復旧工事後の川を見守る～

時政典孝（佐用町総務課広報室）

### 要旨

8年前の8月に大水害が佐用町を中心とした県北西部を襲いました。それから7年間、町が1つになって取り組んだ災害に強いまちづくり。その基盤となる河川改修工事が終わりました。人の営みや川の形が変わっても、私たちの心には清流千種川の景色が宿っています。町の風情を後世へ伝えるため、川の風景や自然を守る取り組みを紹介します。



写真1 ホタルの幼虫を川へ放つ

### 記憶と教訓を語り継ぐ

町立利神小学校では、4年生が自分たちの集落を襲った災害の話を地元のかたから聴き、今も残る爪痕を見学しました。ほとんどの家屋が床上浸水した久崎集落では「防災ツーリズム」で、研修に訪れたかたへ早めの避難、近所づきあい、川を知ることの大切さを訴えます。

### 地域と行政が向き合った川の改修

河川の改修には、昔ながらの川の風情を保ち、地域に親しまれる川となるよう、桜並木を復活したり水辺の公園を造ったりする工事の方法がとられました。

### 川の環境を守る

千種川では毎年8月の上旬に川の一斉水温調査が行われています。また、昭和48年から流域の水生生物調査が小中学生たちによって行われています。これらの調査から、しだいに川の環が悪くなっていることがわかります。河川改修でどう変わるのかが、わかるかもしれません。



写真2 千種川全域一斉に行う水温調査

### 川を知る川を楽しむ

千種川は宍粟市の北部に端を発し、赤穂市の瀬戸内海にそそぐ美しい川です。地域の誇りである川を将来へ受け継ぐために、川に親しむイベントが開催されています。

### よみがえるふるさとの川

河川改修が終わりました。平らで殺風景な川には、少しずつみお筋や葦原などが戻り、ホタルが飛び始めています。オオサンショウウオが生きていけるかを見守るグループもあります

自然の力と川を見守る人の力で、川が心のふるさとへよみがえる日は、そう遠くありません。